

僧帽弁粘液腫様変性犬における椎体長に依存しない 心サイズの評価法に関する検討

才田祐人[†] 北野 寿 矢田乃路子 矢田新平

石川県 開業（矢田獣医科病院：〒923-0802 小松市上小松町丙192-8）

（2022年9月2日受付・2023年2月3日受理・2023年6月14日公開）



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/6/76_e141_/article-char/ja

要 約

胸部X線検査において椎体長により指標化された評価法が一般的に知られている。そこで本研究では、僧帽弁粘液腫様変性犬において左心房サイズを椎体長に依存しない方法により評価することの有用性について検討した。左心房サイズ（Left atrial size : LAS）は、臨床ステージとともに有意に上昇し、椎骨左心房径と同等に心臓超音波検査所見と強い相関性を示した。したがって、胸部X線検査におけるLASは、従来法と比較し測定がより簡便であり、体重1kg以上3kg未満、3kg以上5kg未満及び5kg以上10kg未満の個体においてカットオフ値をそれぞれ2.3, 3.0及び3.3cmに設定することで、心臓超音波検査における左心房及び左心室拡張の目安になりうると考えられた。

——キーワード：犬，修正椎骨左心房径，僧帽弁粘液腫様変性，胸部X線検査，椎骨左心房径。

-----日獣会誌 76, e141～e148 (2023)